



楽しい夏休み、安全に過ごそう！

～おもちゃ花火の安全な使用について～

いよいよ夏本番です。子どもたちにとって夏の代表的な風物詩といえば「おもちゃ花火」ですね。夏の楽しい思い出として子供たちの心に残る事でしょう。

しかし、おもちゃの花火とはいえ、その原料は火薬です。誤った取扱いや、子どもたちの旺盛な探求心によって、想像を越える危険な事故が発生する可能性を秘めています。ルールを守って、楽しい夏を安全に過ごしましょう。



安全な花火の遊び方

- 1 花火に書いてある遊び方をよく読んで必ず守りましょう。
- 2 花火を人や家に向けたり、燃えやすい物のある場所で遊んだりしないようにしましょう。また、衣服に火がつかないように注意しましょう。
- 3 風の強い時は、花火で遊ばないようにしましょう。
- 4 必ず水バケツを用意しましょう。
- 5 大人と一緒に遊びましょう。
- 6 たくさんの花火に一度に火をつけないようにしましょう。
- 7 正しい位置に正しい方法で点火しましょう。
- 8 吹出し、打ち上げなどの筒もの花火は、途中で火が消えても筒を覗いてはいけません。また、点火する時も、筒先に顔や手を出さないこと。
- 9 花火をほぐして遊ぶことはとても危険です。絶対にしてはいけません。

以上のルールを「あたりまえだ」と思わないでください。子どもたちの好奇心や行動力は大人の想像をはるかに超えることがしばしばあります。さらに、間違った使用方法により、火災や大怪我が発生した事例は毎年発生しています。

楽しい夏を安全に過ごすためには、ルールを守って遊ぶことが重要です。

● 女性消防団の「ちょっといい話」 ● <第13回>

A：いつも当たり前のように見よる消防車や救急車なんやけど、どんな種類があるか、どんな仕組みになっとんか、知っとる？

B：知らんのよ～。私まだ消防車も救急車もお世話になったことないけんね。

A：ほしたら、この際やけん見に行こ～や！

ということで、今回女性消防団員は松前消防署の消防車両の見学に行きました。

現在、松前消防署には、救急車、ポンプ車、タンク車、化学車、はしご車、指揮車などが配備されています。それぞれの車両を見学しながら装備や仕組み、役割について消防職員から説明をしてもらいました。

B：やっぱり一番目立つんは「はしご車」やね。

A：うんうん、このはしごは何メートル伸びるんですか？

消防職員：中高層建築物の消火や救助のため、20mまでの高さに対応します。建物で7階まで届きます。

B：地面が硬くて平らやないと大変なことになりそうやね。

消防職員：はい。実際現場では、はしごの先端を付ける位置と、地盤の状態、駐車車両や電線などの障害物と

の位置を見極めて、はしご車を停車させる位置を決めていきます。ただでさえ慎重さが求められる活動ですが、一分一秒を争う現場でもたまたできませんので、



訓練はもちろんですが、伊予市伊予郡管内の中高層建築物はすべて調査を実施し、いざというとき迅速な活動ができるようにしています。

A：へえ～。ほうなんや。地道な努力が、迅速な活動につながるわけやね。

B：ところで、はしご車の先端に乗ってみたいんですけど。

(命綱をつけて初体験！)

A：怖あ～。なんか空中に放り出されたみたいで怖い！これほんとに倒れんの？

B：この上でホース持ったり人を助けたりするんやろ？すごいなあ！怖くない？

消防職員：はい、訓練してますから！

A・B：納得！